



1 はじめに

計画の背景と目的

- ・今治市では、人口減少・少子高齢化や自家用自動車への依存に加え、新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」という。)の影響により、公共交通の利用者数は大きく減少し、現在も以前の水準までは戻っていません。
- ・こうした情勢を踏まえ、今治市では、利便性と市の財政の健全性の両面に配慮した、誰もが利用しやすく持続可能な公共交通体系を実現することが喫緊の課題となっており、今後は、行政・交通事業者・市民のそれぞれが役割を果たすとともに連携を深めながら、地域公共交通を確保・維持していくことが求められます。
- ・アフターコロナで市民の生活や移動が大きく変動する中、近年はデジタル技術が大きな影響をもたらしており、交通分野のDX化やMaaS、自動運転技術の実装が全国的に進められる等、公共交通を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。
- ・本計画は、上記背景を踏まえ、今治市の地域公共交通のあり方や目指すべき方向性、具体的な取組を共有するため、策定するものです。

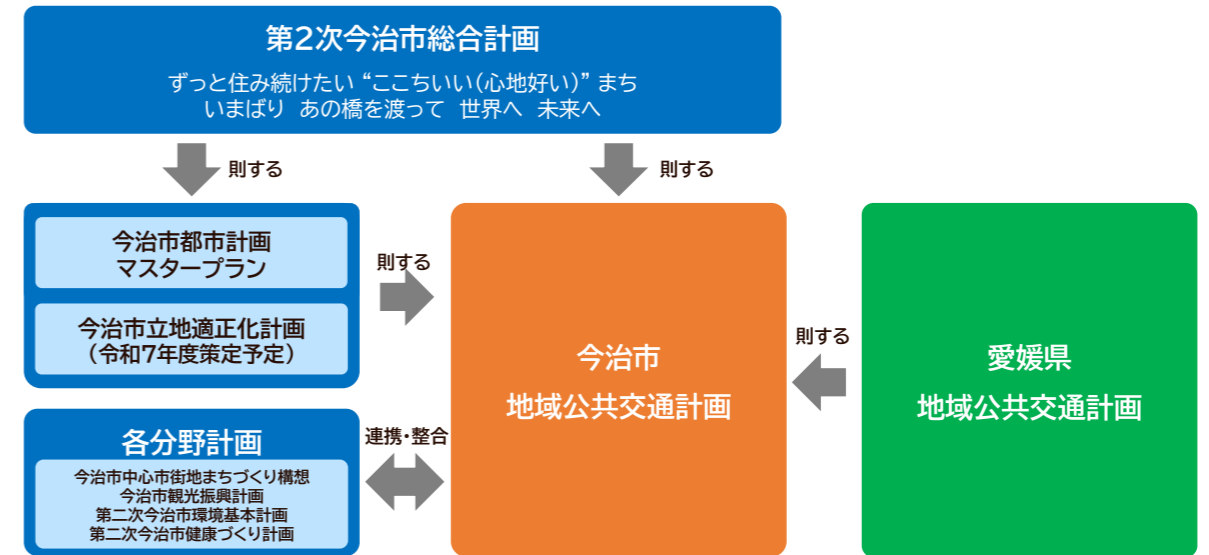
計画の位置付け

- ・本計画は上位計画である「第2次今治市総合計画」、「今治市都市計画マスタープラン」および関連する愛媛県地域公共交通計画の目標・方針に基づきつつ、観光や環境分野等における各種計画とも整合を図りながら、今治市における地域公共交通のあり方や取組内容、進め方を示すものです。

計画期間/区域

- ・計画対象期間: 令和7年度～令和11年度の5年間 計画対象区域: 今治市全域

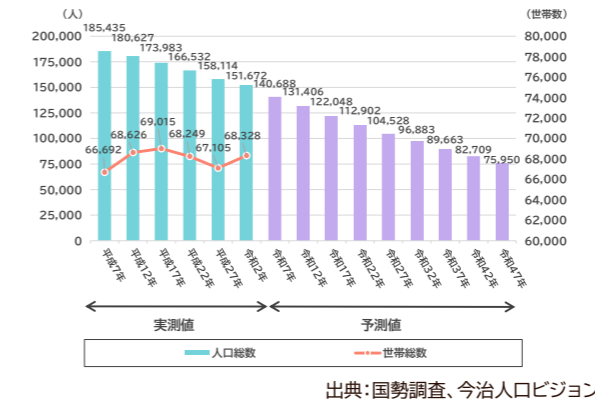
▼計画の位置付け



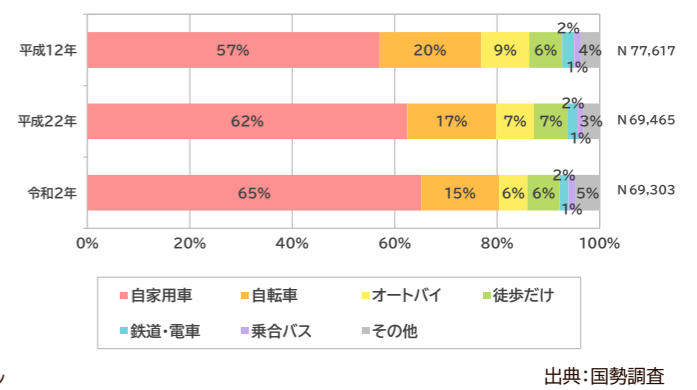
2 今治市の現状・課題及び公共交通の目指す姿

今治市における公共交通の現状	今治市における公共交通の課題	目指す姿
<p>人口・地域の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今後も人口減少・高齢化が進むことが想定 ⇒住み続けたいまちの基盤を整え、人口流出を防いでいくことが求められる ○市域全体に居住地が広がっており、特に高齢化率は島しょ部や中山間地域で高い ⇒居住地・施設誘導と併せた路線再編によりまちのコンパクト化が求められる 	<p>市民の移動を支える環境の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒将来の移動に対する不安が大きく、高齢者等の移動が困難な層も一定存在 ⇒サービス水準の維持や新たな交通の導入等により、移動しやすい環境づくりが必要 	<p>みんなで つくり、守り、 育てる 公共交通</p>
<p>公共交通の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民の多くが自家用車を利用しており、一方で公共交通の利用者は減少傾向 ⇒移動実態・ニーズにあわせて、利用環境を整えていくことが求められる ○高齢者だけでなく、市民の多くが将来の移動・外出に対して不安を抱えている ⇒高齢者等の移動を支えるとともに、将来も住み続けられるまちの実現が求められる ○交通事業者の経営努力だけではサービス維持が困難 ⇒補助・支援を行いながら、効率化等の収支改善につながる取組が求められる 	<p>公共交通に対する行政の継続的な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒公共交通の維持は依然として厳しく、市民の移動を守るために、行政による一定の補助・支援は継続的に必要 	
<p>観光・まちづくりの状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サイクリング等の観光需要は依然として高い ⇒観光体験の充実を図り、更なる誘客を推進していくことが求められる ○新たな交通サービスやMaaSアプリ等、新技術の活用が進められている ⇒既存のサービス等を上手く取り込みながら、利便性向上を図ることが求められる 	<p>公共交通とまちづくりが一体となった魅力ある都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒まちづくりの推進力を公共交通にも取り込み、「暮らしやすさ」と「にぎわい」の両側面から魅力ある都市づくりを行っていくことが必要 	
	<p>公共交通からの観光ブランディングの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒公共交通を上手く活かして、観光体験の充実化や更なる誘客を図っていくことが必要 	
	<p>公共交通に対する市民の印象・意識の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒公共交通の利用を促すため、公共交通の確保・維持に対する市民の印象・意識改善を図っていくことが必要 	

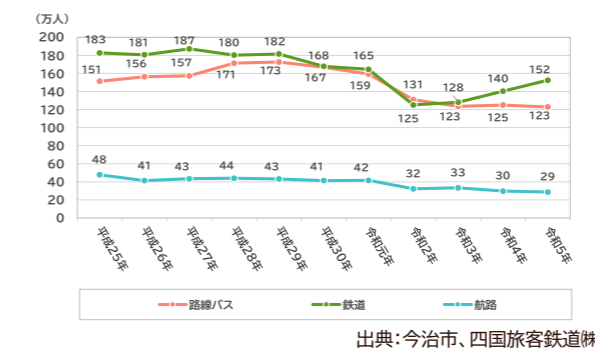
▼人口・世帯数の推移



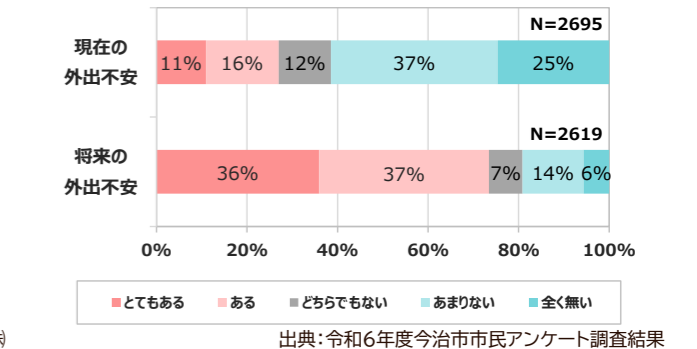
▼各交通手段の利用割合(今治市常住者)



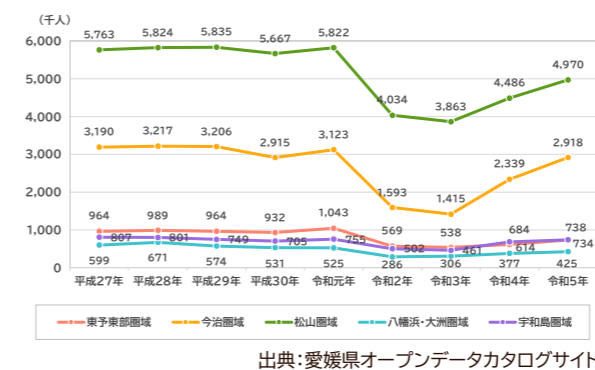
▼公共交通利用者数の推移



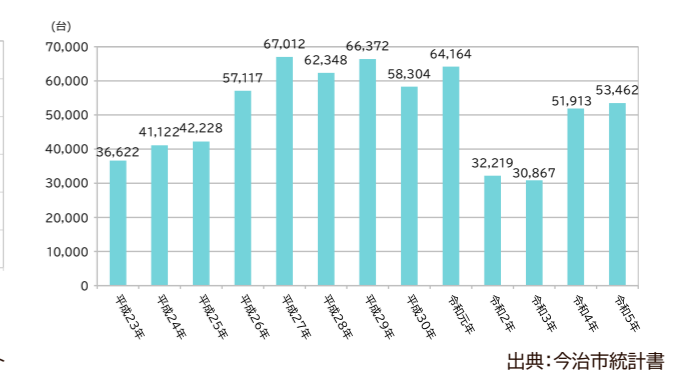
▼移動・外出に対する不安



▼県内観光地区別の県外観光客数の推移



▼レンタサイクルの貸出数





3 今治市における公共交通の基本方針及び目標

今治市が目指す公共交通の姿:

みんなでつくり、守り、育てる公共交通

方針1

安全で快適な暮らしを支える公共交通をつくる



方針2

まちづくりと連携する持続可能な公共交通をつくる



方針3

みんなで公共交通を守り、育てる



4 目指す姿の実現に向けて取り組む施策

方針1. 安全で快適な暮らしを支える公共交通をつくる

目標1. 暮らしを支える公共交通をつくる公共交通体系の構築、役割分担

- 【施策1-1】 役割や利用状況に応じたネットワークの見直し
- 【施策1-2】 地域の需要に応じた運行効率化、サービス改善
- 【施策1-3】 地域による移動手段確保の検討

目標2. 公共交通サービスの持続的な提供に向けた支援・連携

- 【施策2-1】 路線バスや航路の維持に係る適切な支援
- 【施策2-2】 乗務員確保や免許取得に係る支援の検討

目標3. 誰もが利用しやすいサービスの提供、環境づくり

- 【施策3-1】 わかりやすい情報の発信
- 【施策3-2】 待合環境や車両、駅の整備・改善
- 【施策3-3】 最新技術等を活用した利便性向上の検討

方針2. まちづくりと連携する持続可能な公共交通をつくる

目標4. まちづくりと連動した交通拠点づくり、ネットワーク形成

- 【施策4-1】 交通結節点の機能強化、複合機能化の検討
- 【施策4-2】 交通資源を活用した賑わい・拠点づくりの検討

目標5. 交通から観光の価値を高める連携・おもてなし

- 【施策5-1】 観光需要に対応した情報発信、取組の検討

方針3. みんなで公共交通を守り、育てる

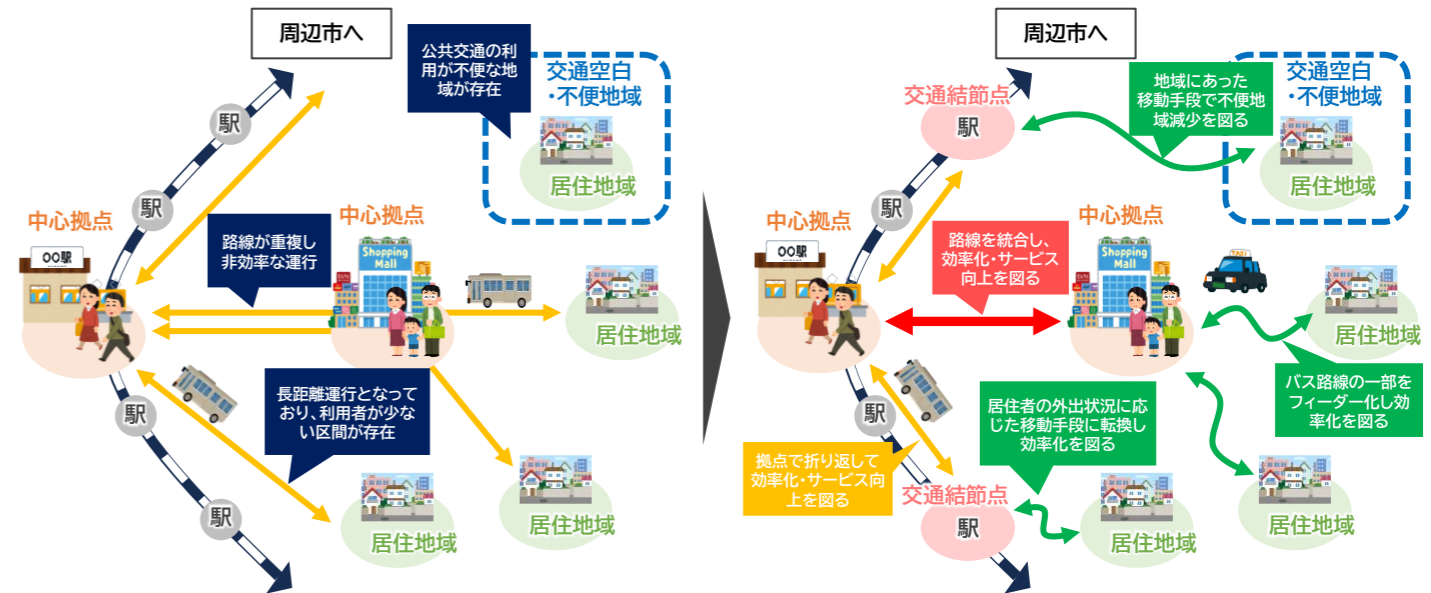
目標6. 市民、民間事業者、交通事業者、行政との連携・共創

- 【施策6-1】 地域・交通事業者・行政による情報共有、意見交換の定期的な実施
- 【施策6-2】 多様な関係者と連携・共創した取組の推進

目標7. 公共交通に対する認識の向上、利用の意識醸成

- 【施策7-1】 モビリティマネジメントの実施
- 【施策7-2】 公共交通を守り、育てる市民意識の醸成

▼公共交通ネットワーク形成の基本的な考え方



5 計画の推進方法

▼年度毎の計画推進スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
計画【Plan】	見直しに基づく改善				次年度事業の検討							
事業実施【Do】	事業実施											
モニタリング・評価【Check】									実施状況の確認・評価			
見直し【Action】											見直し検討	
参考:今治市地域公共交通活性化協議会の基本スケジュール												

▼計画指標及び目標値

評価指標	考え方	現況値	目標値
①各交通手段に占める自動車利用者の割合	自動車から公共交通へ利用転換されているかを評価	65% (令和2年国勢調査)	58% 自動車利用者の1割がその他の交通手段に転換することを目標とする
②免許返納率	公共交通への利用転換を評価	0.6% (令和5年愛媛県警察署データ)	1% コロナ前の水準と同程度の返納率を目標とする
③JR今治駅の日平均乗降者数	交通結節点で人の来訪・賑わいを生みだせているかを評価	4,178人/日 (令和5年四国旅客鉄道データ)	4,200人/日 現況の水準と同程度の乗降者数を目標とする
④今治市の年間観光入込客数	公共交通に関する取組が観光振興につながっているかを評価	264.9万人 (令和5年今治市データ)	300万人/年 コロナ前の水準と同程度の観光客数を目標とする
⑤関係者との協議・対話回数	関係者間で密なコミュニケーションが図れているかを評価	年3回 (令和5年実績)	年7回 協議会年3回 その他年4回を目標とする
⑥公共交通をできるだけ利用したいと考える人の割合	公共交通を利用する市民意識が改善されているかをアンケートで評価	—	35% 公共交通利用者に加え、自動車ユーザの半数程度が回答することを目標とする